

月刊 **新聞ダイジェスト** 時代はいま、どう動いているのか! 6大新聞 今月の社説 読み比べ 連載 2025 No.828 1 掲載月日 '24.11.1 11.30



プロ野球 DeNAが日本一／G20「反保護主義」明記せず
COP29「気候資金」3倍で合意／第2次石破内閣が発足
年収「103万円の壁」撤廃論の行方／13.9兆円の総合経済
対策を決定／円高で製造業が減益 9月中間決算
米FRB 金利0.25%下げ／侵略1000日 露朝軍事条約
発効、米長射程攻撃を容認／ガザ戦闘13か月
ヒズボラとの停戦に合意／失職した斎藤氏 兵庫県知事に
再選／谷川俊太郎さん死去

注目のニュース

大谷MVPの3度目の満票 史上初
米大統領選 トランプ氏 再び咲き

月刊 **新聞ダイジェスト**

CONTENTS

25年 1月号

記事特集

大谷MVP 3度目の満票 史上初	8
プロ野球 DeNAが日本一	12
米大統領選 トランプ氏 再び咲き	14
G20「反保護主義」明記せず	20
COP29「気候資金」3倍で合意	22
第2次石破内閣が発足	24
年収「103万円の壁」撤廃論の行方	28
13.9兆円の総合経済対策を決定	32
円高で製造業が減益 9月中間決算	34
米FRB 金利0.25%下げ	38
侵略1000日 露朝軍事条約発効、米長射程攻撃を容認	40
ガザ戦闘13か月 ヒズボラとの停戦に合意	44
失職した斎藤氏 兵庫県知事に再選	48
谷川俊太郎さん死去	52

■連載 放課後「新聞カフェ」で考えを深める【関東学院六浦中学校・高等学校】	4
■今月の気になるニュース解説①②	6
■[NEWS月録] 2024.11.1(金)～11.30(土)	54
■読売新聞特集 今月の注目記事	56
■今月の社説読み比べ	60
■政治	80
■国際	104
■経済	92
■社会	116
■社会…116 ■裁判…128 ■厚生・労働…134 ■教育・文化…140	
■環境・科学…146 ■スポーツ…152 ■統計・話題…162	
■読売新聞特集 New門	167
■読売新聞特集 就活ON!	169
■最新時事用語の解説	171
■時事問題模擬試験	175

【表紙写真】 2024 年 米大統領選挙 トランプ氏が勝利宣言
Republican presidential nominee and former U.S. President Donald Trump takes the stage to address supporters at his rally, at the Palm Beach County Convention Center in West Palm Beach, Florida, U.S., November 6, 2024. REUTERS/Brian Snyder (United States)
〈写真〉ロイター／アフロ〈日付〉2024 年 11 月 6 日〈撮影国〉アメリカ合衆国

読売新聞特集 今月の注目記事／New門／就活ON!
好評連載 今月の気になるニュース解説／最新時事用語の解説／時事問題模擬試験
連載 中学生高校生の新聞活用教育に迫る【関東学院六浦中学校・高等学校】

特集 中学生・高校生の新聞活用教育に迫る

放課後「新聞カフェ」で考えを深める

関東学院六浦中学校・高等学校（私立・神奈川県）その2

横浜市金沢区にある関東学院六浦中学校・高等学校（黒畑勝男校長）は、その日の新聞の中から、生徒が取り上げたいトピックを紹介し議論をする放課後「新聞カフェ」を月1回ペースで開催している。社会の様々な出来事を「自分事」として捉え、自分の意見を表明する、また、他者の意見も聞いて視野を広げる場だ。

これまでの新聞カフェで、話題に上ったトピックは、「AIによって失われる職業」「中高生の新聞に対するイメージ」「人口減少」「ラッコが水族館から消える」などだ。2024年10月の新聞カフェでは、物価高対策やテレビ・新聞などの報道のあり方、スポーツからエンタテインメントまで、様々な話題が提供された。参加した5人の生徒に新聞とのかかわり方を聞いてみた。

新聞とのつきあいは十人十色

影山結衣保（高一）さんは、探究力、日本語力、高い英語力を育成する「GLE（Global Learning through English）クラス」に在籍しており、ニューヨークタイムズやジャパンタイムズにも目を通すそうだ。「読

みやすそうな記事から入り、ページをめくって興味がある記事があれば深く読み込みます。あと、家ではテレビ欄で祖母が好きそうな番組を見つけたら知らせにいきます」。

読売新聞の「人生案内」がお気に入りコーナーだという今井希美さん（中2）は、「文字を読むのが好き。紙の匂いや質感も含めて」という根っからの新聞好きだ。松井嶺奈さん（高一）は、週末の別刷りが楽しみで、連載記事や数独パズルが好みだという。「デジタルコンテンツだと、ヒントになる情報のボタンをすぐにクリックしたくなるけれど、紙の新聞は

載っている以外に情報がないので、考える力が付くと思います」。

新聞が家族とのコミュニケーションツールになっている生徒も多い。「朝



新聞をきっかけに議論が展開する

きると、『読んでみて』というメモと一緒に、国際面の切り抜きが置かれているんです。夜、父が帰ってきたらその記事のことで会話が弾んで、ちょっとしたイベントみたいになることもあります。最近はお父さんからも切り抜いて父に渡すこともあります」と、結城一義さん（中3）。「近い年代のみんなとニュースのことを話したらどうなるだろう、という好奇心があって今日は初めて参加しました」。

意見を言うのも、聞いているのも自由

新聞カフェの魅力は、このようにオープンに発言できる気軽さにある。「ここは必ず発言しなければいけないわけでなく、でも、興味のあることや関連することを思いついたら発言できる自由さがあると思います」（影山さん）。

放課後の活動なので、教科と違い成績が付くことはないし、途中で抜けてもかまわない。家族や友達と話すようなプライベートな場面ではなく、また、授業のような学校生活のメインの場でもない。学校の中の、第三の居場所（サードプレイス）的な立ち位置なのがこの新聞カフェなのだ。校内のあらゆる年齢や所属の人が集う場、「情報」が集まる知的な創造空間としての学校図書館を有効に活用している。

普段とは違う生徒の一面も

新聞カフェが開かれている間、ずっと生徒

の対話を見守り、時に会話が弾む質問を投げ込み、他の生徒に意見を求めるなど、ファシリテーターに徹していたのが同校の専任司書教諭、九渡愛美教諭だ。新聞カフェの実践は、2024年8月に京都で開催された「第29回NIE全国大会京都大会」で報告している。この取り組みの狙いはどこにあるのだろうか。

「新聞の

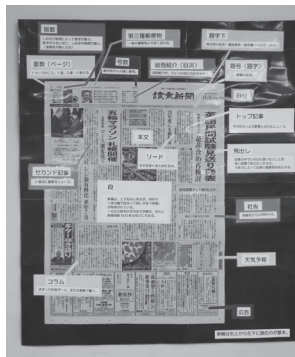
中のことを自分事に落としていくことです。

トピックは新聞から拾うのですが、それに対してこの前、こんなことがあったなとか、私はこんなことを聞いたよ、という自分の経験談やエピソードに落としていく作業をします」。

九渡教諭は、以前、



（上）入りやすい雰囲気の学校図書館。
（右）新聞の読み方も解説して掲示する。



新聞は調べ学習の情報源として使うものだと認識していたという。だが、新聞活用を学んでいくにつれ、主権者として、よりよい社会のために自分の考えを持たせるのが、新聞活用だと気づいた。

放課後の学校図書館で開く理由は、授業のような制約を持たせなくなかったからだそうだ。

主体性を高める新聞カフェ

生徒が課題解決に向け主体的に動き出そうとする機運もある。ある月の新聞カフェで、新聞記事をつっかけに公共の場での人との関わり方について話しているうちに、登下校時の困りごとを打ち明ける生徒が何人も出てきたという。社会課題の解決を、と常に言われている生徒たちは「何よりも、自分たち、仲間の困りごとを解決しないといけないのでは」と考え、防犯対策、意識を高める校内のアクションを考えているという。

新聞をとおして他者と対話する有効性を感じながら、主体的に社会と自分をつなぐ経験ができる。それが同校の新聞カフェの最大の魅力であり、可能性でもある。



九渡愛美教諭



新聞カフェを終えて。フラットに話し合える関係は貴重だ。（左から）結城一義さん、影山結衣保さん、松井嶺奈さん、今井希美さん。

編集・取材 長尾康子